

1 学校教育目標

学ぶよろこび ・ きたえるよろこび ・ ふれ合うよろこび をもつ子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・安全で笑顔あふれる学校 ・子供も教職員も生き生きと輝いている学校 ・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・基礎的・基本的な学力・体力を身に付け、工夫しながら楽しむ子ども ・目標をもち、最後までやり遂げる子ども ・互いの違いや人権を尊重し、協働して、社会に貢献する子ども
○教師像	・子供の人権を守り、子供とともに協働し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ・子供のよさを認め、励まし、高める教師 ・指導力の向上を目指し、主体的・意欲的に研修に励む教師 ・課題意識をもち、組織的に課題に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

○学級数12学級、児童数317名、創立56周年を迎える。学区域は、環七北側に位置し、2つの町、3つの町会が存在する。保護者・地域の方々は、学校教育に理解があり、協力的である。

児童は、明るく素直で、子供らしい児童が多い。学習中は、落ち着いて学習に取り組む児童が多い。教職員は、若手教員が多く、一つ一つの授業や行事に、熱心に指導に取り組んでいる。足立スタンダード虎の巻を軸にした授業を展開し、思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、取り組んでいる。

[前年度の成果と課題]

○チャイムに頼らず、時計を見て主体的に行動するようになった。

○体験を通して社会生活に生きる知識や知恵を身に付けるよう、学校行事を充実していく。

●ICTの活用：授業中の対話の中で、考えを出し合ったり比べ合ったりする場面の活用に努める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな人間性の育成（豊かな心）	◎	◎	◎	◎	◎
3	基礎体力の向上と健康な体づくり（健やかな体）	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的な内容の定着、課題解決を分かりやすく考えさせる授業の工夫・改善を行う。		区学力調査目標値通過率 2科目通過率75%		2科目通過率77% 国語81% 算数74%		授業時間内で定着にかける時間を確保し、文章読解力・漢字、言葉などの語彙力、基礎的計算技能の向上を図る。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実 授業力向上	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・「足立スタンダード虎の巻」の活用 ・校内研究、小中連携での研究授業の実施、区内外の研究発表への参加 ・日常の授業観察と指導・助言（管理職・教科指導専門員） ・SP表に基づく授業改善 ・週の指導計画の充実 ・主活動2つ以上明記 	日常の授業観察 授業公開 教員の自己評価 学力定着度テスト（10月）	教員の自己評価95%以上実施 児童の意識調査から「授業が分かる・楽しい」 目標値を80%として通過率 （定着度テスト10月） 低学年85% 中学年80% 高学年75% 以上の人数	教員の自己評価100% 目標値通過率 国語 低学年88% 中学年69% 高学年70% 算数 低学年87% 中学年63% 高学年58%	低学年の国語が通過率88%・算数が87%と達成目標の数値を超えたが、中・高学年は達成目標を下回る結果となった。定着を図ることを重視した45分の授業・教材を計画作成実施することを重ねることで、分かる授業、できる授業を施し、意欲・理解を高めていく。	△

2	AIドリルの活用	全児童 国語 算数 基礎技能 中心	通年	・パワーアップタイム： 個別に学内容の定着を図 る必要がある内容につい て取り組む。	教員の自己評 価 単元テスト	目標値を80%と して通過率 低学年85% 中学年80% 高学年75% 以上の人数	教員の自己評価 100% 目標値通過率 国語 算数 低88% 低87% 中69% 中63% 高70% 高58%	取り組みは各学年よ く行っていた。その 取り組みが結果に繋 がるよう、適宜教員 による指導や解説が 必要である。その時 間を意図的にパワー アップや授業に組み 込んでいく。	○
3	ICTの活用	全学年 全教科 思考力 向上	通年	・担任・専科 ・児童がより分かるため にICTを活用した授業を 行う。	週の予定表 評価アンケ ート	全教員が週 3回以上ICT を活用した 授業を行う。	教員の自己評価 100%	ICTを活用すること で、より「分かる・ できる」を児童が実 感できる授業を行 う。また、移動する ことなく他の児童の 考えを知ることがで きる利点を生かす授 業を行う。	○
4	パワーアップ タイム	全 児 童 算 国 語 数 語	週 4 回 始 業 前 5 分 ~ 1 0 分 間	・東京ベーシックドリル・AI ドリルMIMなどを使い、学習内 容の復習・確認を行い、定着を 図る	教員の自己評価 学力定着度テス ト(10月)	目標値を80%と して通過率 低学年85% 中学年80% 高学年75% 以上の人数	教員の自己評価 100% 目標値通過率 国語 算数 低88% 低87% 中69% 中63% 高70% 高58%	11月以降、読み取 りに焦点を当てたプ リントを全学年で実 施し、一定の効果を 実感している。今後、 計画的に同様学習を 配置し、読解力を高 めていく。	○
5	話す力の育成	全 学 年 全 教 科	通 年	他者との関わりから考えを深 める授業づくり 他者に伝える機会の充実	評価アンケート	肯定的な回答が 80%以上	肯定的な回答 低学年81% 中学年73% 高学年61%	話し合い活動など、 視点に沿った話し合 いがよくできている。 引き続き授業でも 児童にとって自分 事と捉えられる教材 を用意していく。	○

6	読む力の育成	各教科 その他	通年	各教科や家庭学習等において音読の日常化、詩の暗唱に取り組む	評価アンケート	肯定的な回答が80%以上	肯定的な回答64%	通常の授業でも音読を意図的に配置し、語彙力、読解力を高めていく。	○
7	夏期補充	対象児童 各学年10名程度 国語算数	夏休み期間中の10日 各日60分	・担任、専科、学習ボランティア ・学力調査で分析した、学習内容の補充をプリント・タブレット、リモート等を活用して理解を図る。	学力定着度テスト(10月)	学力定着度テスト 4月から20ポイントプラス(10月)	対象児童のうち、 20ポイントプラス 国語 低学年50% 中学年45% 高学年40% 算数 低学年40% 中学年60% 高学年40%	児童に「分かる喜び、できる楽しさ」少数だからこそしっかりと味わえるような、個に応じた教材を用意し、指導を展開していく。	○

重点的な取組事項－2		豊かな人間性の育成（豊かな心）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感を高める 思いやりのある心を育む		学校は楽しい95% 自分を肯定的に捉えられる90%	学校は楽しい92% 自分を肯定的に捉えられる88% 肯定的な回答 低学年 84% 中学年 88% 高学年 89%	児童全員が学校を楽し い場所と捉えられるよ う、支援をしていく。 児童同士協力して課題 やトラブルを解決して いくことを通して仲間 意識、達成感を味わい、 自尊心を高め、学校が 楽しい場所であると捉 えさせていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

いじめ・差別の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・差別に関する教員研修と防止授業を4回以上 ・児童会主体のいじめ・差別撲滅キャンペーンを年2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座で、いじめ防止授業を全学級で公開 ・健全育成の年間計画に沿った取組の実施 	教員研修と防止授業 4回以上 100% いじめ・差別撲滅キャンペーンを年2回実施 100%	ちくちく言葉 ふわふわ言葉を各クラスで掲示するなど、児童同士の言葉遣いをよくしていく雰囲気醸成する。	○
社会への参画する力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動(1)の話合い活動を年間15回以上実施 ・全員が学級会の運営に1回以上関わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動(1)の実施 ・全員が司会や記録等を経験する 	話し合い活動 実施回数10回以上 100% (2年生以上)	身近やクラスの諸活動に関することを話し合うことで、相手の意見を取り入れ、自分の考えに修正を加えながら、話し合いを進めていく力を引き続き身に付けていく。	○
自己の実現に関する力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・学期や学校行事等のめあてや振り返り指導を年4回以上 ・学校評価(児童)「自分のことを大切に思う」の肯定的回答が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢デザインシートの活用 ・学級活動の時間に、係活動のめあてづくりや振り返り指導を実施する 	めあてや振り返り指導 年4回以上 100% 自分を肯定的に捉えられる 肯定的な回答88% 低学年 84% 中学年 88% 高学年 89%	結果よりも児童の努力を称賛し、児童が努力を重ねていく過程を重視した指導と声掛け・評価を積み重ね、努力していくことに肯定的、積極的になる児童を育てる。	○
不登校傾向児童への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会の実施回数 ・(3年生以上) WebQU を2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会で、情報共有、関係諸機関との連携など、素早く組織的に対応する ・WebQUの結果を学級経営に活かす 	校内委員会を10回以上実施した。 3年生以上のWebQUを2回実施した。	児童観察をすること。児童からの言葉を丁寧に受け取り、トラブルを未然に防ぐなど、引き続き努力工夫が必要。	○

重点的な取組事項－3		基礎体力の向上と健康な体づくり(健やかな体)			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>進んで体を動かす児童の育成と基礎体力の向上</p>	<p>目標実現に向けた取組の実施結果が、2項目以上が達成基準以上</p>	<p>休み時間に校庭に出て体を動かしている（91%）、体を動かすことは好き（83%）</p>	<p>引き続き外遊びを奨励し、運動好きな児童を増やし、運動の日常化を図っていく。柔らかさを高める運動については、体育の授業の準備運動で取り入れるなど、必要感と共に意欲付けを図る。</p>	<p>○</p>	
<p>B 目標実現に向けた取組み</p>					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>基礎体力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題種目の平均値が、年度初めよりも再調査の結果が向上 ・ 体育実技研修を、年3回以上行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月の調査から課題種目を決め、体育の時間に課題克服のための指導を行う ・ 効果検証として、再調査を12月までに実施 ・ 体育実技研修を実施し、指導のポイントを全教員が共有する ・ オリンピックタイムや持久走記録会・縄跳び大会などの行事を通して体力向上を図る。 	<p>上体起こし、反復横跳び、握力を課題種目とし、体育の授業に取り入れた結果、特に1, 3, 5年生で有効な向上が見られた。</p> <p>持久走記録会に向けて、よい意欲付けが各学年でできていた。また、大縄大会に向けて、クラスが団結して目標回数に向かうことができた。</p>	<p>体育の授業をより効果的に行えるよう、研修を重ねていく。授業だけでなく、オリンピックタイムの種目提示の仕方を工夫し、より効果を高めていく。</p> <p>持久走記録会に向けて、よい意欲付けが各学年でできていた。</p>	<p>○</p>
<p>運動の日常化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価項目（児童）「体を動かすことは楽しい」「休み時間に校庭で週に3回以上遊ぶ」の回答が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中休みに全児童が取り組むオリンピックタイム・なわとび、持久走など 	<p>「体を動かすことは楽しい」83%</p> <p>「休み時間に校庭で週に3回以上遊ぶ」91%</p>	<p>体育の授業だけでなく、通年のオリンピックタイムは、児童の、運動の日常化に寄与した。種目や提示の仕方を工夫し、より効果を高めていく。</p>	<p>○</p>

食育の充実	・学校評価項目（児童） 「ひと口目は野菜から食べる」の肯定的回答が85%以上	・全学級で「ひと口目は野菜から、よくかんで食べましょう」の号令を実施 ・栄養士と担任が連携した学級指導の実施 ・学校だより、給食だよりでベジファーストの必要性を発信する	ひと口目は野菜から食べる」の肯定的回答が86%	この言葉のみならず、食育の他の言葉のもつ意味を伝え、より一層食育を充実させていく。	○
-------	---	--	-------------------------	---	---

6 まとめ

1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

足立スタンダード虎の巻を意識して授業づくりをすることを重視してきた。児童が互いに考えを共有しながら学習を進めていた。

次年度は、学習内容の定着を次年度の学習面の重点課題とする。そのために、授業時間内で定着にかける時間を確保し、文章読解力・漢字、言葉などの語彙力、基礎的計算技能の向上を図る。この徹底により、区学力調査目標値通過率を上げていく。

これらの定着に照準を絞り、全教員が共通理解し、授業改善を図っていく。全児童が分かる楽しさ・できる喜びを味わえるようにする。

授業改善は、基礎基本の定着をより意識し、分かること・できることで楽しさや喜びを味わうようにする。また、ICTも活用した個に応じた指導を展開することも必要となる。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校の学校教育へのご理解・ご支援には深く感謝申し上げます。

本校児童の授業中の学習姿勢（集中して話を聞く・発言する・ノートを書く）は、本来的にとってもよいと実感しています。また、教師を見る目、言葉を聞く時の表情のよさがとても素敵です。それは、家庭教育、地域のあり方に起因していると考えております。その家庭・地域のよさを継いで、私たち教員が工夫を重ね、よりよい授業を懸命に準備していく必要があると考えています。

また、今年度は、各教科の学習にタブレットを用いた学習を多く取り入れ始めました。これからの授業にはICTをどう取り入れるかが必須だからです。これらの授業は、参観等でご覧いただけたかと思います。令和8年度も引き続きこの学習スタイルは継続させます。

今後も児童の成長のために地域のお力、家庭のお力をお借りしたいと存じます。

どうぞ引き続きよろしく申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校は、家庭・地域と共にあります。

家庭と地域を大切に、家庭と地域を愛する児童を育成していきます。